歩み編さんだより

令和７年２月
Vol.25

『和泊町の歩み』編さん事務局発行

第3回「郷土学習講話」を開催

新町誌「和泊町の歩み」の執筆者を講師に招く「郷土学習講話」第３弾が令和７年１月１１日（土）、城ケ丘中の全校生徒を対象にありました。

自然編１章「沖永良部島の地質と成り立ち」の執筆者、新城竜一氏（琉球大学・総合地球環境学研究所教授）を講師に、越山周辺を巡って地層や岩石を観察しました。生徒らは実際に岩石類を手に取りながら、島の成り立ちについて学びました。

まず訪れたのは島の基盤層である「根折層」の観察ポイント。粘板岩や砂岩で構成される地層です。実際に手に取り、粘板岩が薄く剥離していく様子や、粘板岩より粒が大きい砂岩の様子などをしっかり確認できました。

粘板岩を手にする城中生。ぽろぽろとはがれていく様子にびっくり。

泥岩、砂岩、れき岩は粒の大きさが違うため、沈殿する速さも場所も違います。その違いが地層形成にどう作用するのかなど、とてもわかりやすく解説していただきました。

続いて、島内で越山周辺だけに分布する花こう岩（花崗閃緑岩）を観察しました。歴民館裏手の森林の中に、大きな花こう岩の露頭があり、緑がかった迫力ある姿を間近に見ることができます。砕いて観察し、粘板岩や砂岩との違いを確認しました。

こもれ陽の中を行く城中生たち。ちょっとしたハイキング気分を味わいました。

岩石の年代測定方法について詳しい話を聞くことができました。岩石の中にある鉱物ジルコンにはウランが含まれており、そのウランが崩壊するときにつける傷を手掛かりに測定するフィッション・トラック方式というやり方や、崩壊後にできた鉛の量を測定することで年代を調べる方法があるそうです。専門家ならではの高度な知識に触れました。

雲母を含むマサ土は日を受けるとキラキラと光りました。

最後に足を運んだのは、花こう岩が風化してできた「マサ土」が観察できるポイント。花崗閃緑岩が長い年月をかけて気温変化や風雨の影響を受けて風化すると、手に取るだけでボロボロと崩れるような土になります。生徒たちも興味深く観察します。

城ケ丘中　3年　名前（　　）

今回の講話で私は沖永良部の地層についてたくさん知ることができました。特に私は根折に住んでいるので自分の地元にも地層があるのだと驚きました。また，今まで砂や土だと思っていた物が風化した岩石であることも驚きました。こんなに特色がある永良部の地層や環境をこれから守って大切にしていきたいと思いました。今回はありがとうございました。

城ケ丘中　2年　名前（　　）

今回、地層についての体験学習を受けて、今まで地層なんてどこも同じようなものだろうなと思っていたけど、この島にしかない岩石や、地層の種類があると知って驚きました。特に印象に残っているのが1番最初に行った所の石で、あの石はちょっと力を入れたら割れて中はスベスベしたのがよかったです。最後にずっと昔の物や果てしない年月をかけたものを調べるのはとても楽しそうに思いました。

生徒たちの感想

城ケ丘中　1年　名前（　　）

今回は、講話学習に来て下さり、ありがとうございました。同じ島が隆起して出来た与論島と沖永良部島でも、全く異なった多様性あふれる岩石があることを知って、とても驚きました。今回は本当にありがとうございました。

『和泊町の歩み』
編さん室
〒891－9112
大島郡和泊町和泊１０番地
和泊町中央公民館内（役場となり）
TEL：0997－92－3690（直通）
担当：甲（きのえ）・　市來